

## 編集後記

第二号をお届けする。

中古文学・中世文学・近代文学・漢文学・国語学等、本号にも様々な学問分野の研究成果をご投稿いただくことが出来、彩りある誌面となった。ご投稿くださった会員の皆様に御礼申し上げます。

「ご存じのように、本学文学部には二〇一四年度より新しく歴史文化学科が設けられ、既存の日本文学科・言語表現学科と共に、三学科体制となった。それにもない、本学会も姿を変えていくようにしている。これまでのところ、その最も著しい顕れの一つが本誌名称の変更である（二〇一四年度より誌名を『中京国文学』から『中京大学文学会論叢』へと改称）。

会員諸氏には、本誌をぜひ積極的に活用し、今後とも多様な学問分野の研究成果をどしどしご投稿いただきたいと願う次第である。

なお、二〇一六年度は文学部開設五〇周年記念の年となる。本学会もそれにふさわしい大会を開催すべく現在着々と準備を進めている。春季大会は第一回文学部同窓会と同日に開催予定だ。奮ってご参加いただければ幸いです。

(五)

中京大学文学会論叢 第二号

（『中京国文学』通号 第三十五号）

平成二十八年三月十五日 発行

編集兼  
発行者 中京大学文学会

代表 佐藤 隆

名古屋市昭和区八事本町一〇一ノ二

電話（〇五二）八三五 七一―

振替 名古屋 六一六〇〇三〇

印刷所 株式会社 一誠社

名古屋市昭和区下構町二ノ三二

電話（〇五二）八五一 一一七一

表紙題字（書） 樽本樹郎（英信）名誉教授